令和08年度　　作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
1	□入門シリーズ（作業管理概論） 300-01(02-02)	榎　原　　毅	講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 8（金）	コマ数 0 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】①労働衛生の３管理における作業管理について、どのような業務を行うのか概要を把握する。②作業管理における作業分析の方法や労働衛生保護具の概要について把握する。③実務講座における作業管理部の開講科目について把握する。 【概要】入門編として、作業管理とは何か、またどのような業務を行うのかについて紹介する。まず、我が国の業務上疾病の発生について、経年的な推移と疾病の原因を概観する。次に作業管理の位置付けについて、労働衛生の目標との関連、企業における諸管理との関連について紹介し、また、作業管理と関連の深い人間工学及び労働衛生工学について概説する。一方、作業分析の方法、労働衛生保護具の選定と管理の方法など、そして法規や通達に規定されている作業管理の事例などについても簡単に紹介する。さらに、作業管理部の実務講座のそれぞれの内容についても一部紹介する。	
2	□ヒューマンエラー 300-02(02-02)	庄　司　卓　郎	講義 産業医実務研修センター 50名	2/ 4（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①ヒューマンエラー事例を検討して、根本原因、背景要因を究明できる。②ヒューマンエラー防止対策を考案できる。 【概要】作業現場において、ヒューマンエラーや不安全行動と関連した労働災害の発生が多く発生している。安全担当者はヒューマンエラーを問題視し、その防止に頭を悩ませているが、なかなか減少しないのが現状である。事故や災害の分析では、ヒューマンエラーや不安全行動が”原因”として扱われることもあるが、実際にはヒューマンエラーや不安全行動が発生する背景には作業の問題、組織・管理の問題をはじめとして、さまざまな要因が存在する。そして、その防止にあたっては、作業設備の改善や管理・監督の強化などの現場レベルの対策だけでなく、作業員の安全意識や安全活動への関心など人間の特性を考慮した対策も重要である。 本講義では、ヒューマンエラー事例の分析体験を通じて、誘発要因を理解し、防止対策を検討する。	
3	□リスク認知と安全意識 300-03(02-02)	庄　司　卓　郎	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 9（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①安全意識の測定を実践できるようになる。②安全意識を高めるような組織の施策を立案できるようになる。③リスク認知のバイアスを理解できる。④リスク感受性を高める方法を提案できる。 【概要】リスクアセスメントでは、危険性の検出と特定、危険性の評価・見積もりを行う。一般に人が危険を認識し評価する過程（リスク認知）にはバイアスが存在することが知られている。そのため、多くの場合人は危険を過小評価してしまう。このことが危険軽視、油断、さらには不安全行動につながることも多い。作業員の安全意識高揚のために、安全文化の醸成をはじめとしたさまざま施策が実施されてきた。近年では行動経済学的手法を用いた安全行動への誘導も試みられている。 本講義では、人のリスク認知の性質を学び、安全意識を高揚させ安全行動へと誘導する方法について考える。	
4	□安全管理の実際 300-04(02-02)	弘中知行・野末知里	講義 産業医実務研修センター 50名	1/29（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】産業医の立場から安全管理に対する指導的な発言ができる。 【概要】企業における安全衛生管理は、安全管理、職場環境管理、健康管理が三位一体となって推進されている。産業医は、健康管理や職場環境管理等（労働安全衛生規則第１４条に定める職務）の他に、安全衛生パトロールへの参加（同規則第１５条）、安全衛生委員会への出席（労働安全衛生法第１９条）や、法に定められていない所でも、災害発生時の救急対応やその教育、また、ヒューマンエラーによる労働災害を防止するため心理学的側面からの一助を求められるなど、安全管理との関わりを持たざるを得ない。本講義では、鉄鋼会社の実例により、労働災害の現状及び企業における安全管理の基本（労働安全衛生マネジメントシステム、リスクアセスメント活動、社員の安全意識向上やルール遵守のための躾活動、作業請負会社と連携した安全衛生活動など）について学習し、産業医の立場から安全管理に対する指導的な発言ができる力を獲得することを目指す。	

令和08年度　　作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
5	□新しい自律的作業管理 300-05(02-02)	榎　原　　毅	学内実習 産業医実務研修センター 20名	1/28（木）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】①安全・健康といったwell-beingと労働生産性・品質といったパフォーマンスの適正化視点を獲得する。②各ステークホルダの価値を分析、明確化し要求事項として整理できる。③自律的作業管理を組織内で展開する際に必要となる組織マネジメントやステークホルダとのパートナーシップの形成方法を理解する。 【概要】作業管理の理論的枠組みを扱う人間工学分野で今トレンドとなっているシステムズ・アプローチによる新しい課題解決手法の視点を実習形式で体得する。安全・健康といったwell-beingと労働生産性・品質といったパフォーマンスの適正化をはかるために、人を含むシステム要素間の相互作用を適切にデザインする視点を習得することで、自律的な作業管理の実践を現場で指導するスキルを身につける。	【抽選】　余裕があれば学外者受講可
6	□デジタルメンタルヘルスと作業管理 300-06(02-02)	榎　原　　毅	講義 産業医実務研修センター 50名	2/ 9（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①デジタルメンタルヘルスを取り巻く技術動向と産業保健サービスを理解する。②デジタルメンタルヘルスの国内外の基盤整備の動向を把握し、作業管理への応用視点を獲得する。 【概要】近年、生成AIや各種センシング技術などを活用し、働く人々のウェルビーイングを高めるための新たなヘルスケアサービスの模索や社会基盤の整備が進められている。それら技術を適切に社会へ普及実装するためには、技術応用の利点や限界について産業医が理解し、実践応用することが求められる。本講義では最新のデジタルメンタルヘルスの技術動向と産業保健・作業管理への応用のあり方について、基本的な知見と視点を身につける。	
7	□障害者のための作業管理 300-07(02-02)	二　宮　正　樹	講義 産業医実務研修センター 50名	1/20（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】 ①障害者に対する合理的配慮および両立支援の概念を理解し、その内容を説明できる。②障害者の作業管理において、就業能力の評価に必要な情報を収集する方法を説明できる。③障害者の作業管理において、適正配置の観点からその考え方を説明できる。 【講義概要】 本講義では、外傷性脳損傷や脳卒中などの中途障害を有する労働者の復職に際して必要となる作業管理について、両立支援の観点から概説する。復職における作業管理では、身体障害や高次脳機能障害などに基づく就業能力の評価が重要であるが、なかでも高次脳機能障害は医療者においても十分に理解されていない場合があるため、基礎から詳しく解説する。あわせて、本人および医療機関から得られる障害に関する情報収集のポイントや、それらの情報に基づいた両立支援の考え方について理解を深める。	
8	■高齢者の作業管理 300-08(02-02)	樋　口　善　之	講義 遠隔講義 50名	2/22（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】高齢者の作業特性を理解し、適切な作業管理を指導できる。 【概要】職場における労働者の高齢化は、高齢者人口割合の増加と定年の延長により、今後、更に深刻さを増すことが予想される。高齢者が安全かつ健康に働ける職場を提供するためには、加齢による心理的身体的特性の変化を理解し、作業管理を行う必要がある。本講義では、加齢による心理的身体的特性の変化について概説し、その特性の変化に合わせた職場改善の方法論について解説を行う。	

令和08年度　　作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
9	□人間工学チェックリスト 300-09(02-02)	吉　川　　徹	学内実習 産業医実務研修センター 50名	2/ 4（木）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】①人間工学チェックポイント（ILO）の意義について理解する。②人間工学チェックポイントを職場改善活動において活用できる様になる。 【概要】1．人間工学チェックリストとは何か：対策選択型アクションチェックリストの典型である人間工学チェックリストの構成と対象領域について概説する。従来から広く使われている点検型チェックリストとの相違点について理解する。 2．人間工学チェックリストをどう使うか：人間工学チェックリストを利用した職場改善実践やリスクアセスメントの事例をもとにして具体的な使用法を紹介する。潜在リスクの洗い出しに役立つことから、リスクアセスメントを実施する人材養成に活用できる点や、職場改善に構成員全員の参加を促す効果がある点を理解する。 3．人間工学チェックリストをどう作るか：対象とする職場に適した人間工学チェックリストの作成法について概説する。作業場を撮影した写真（映像等）を題材にして、実際にチェックリストを作成・試用するグループワークを通じて理解を深める。また、人間工学チェックリストを基本にして、メンタルヘルス対策や災害時対応などに用いられている発展形のアクションチェックリストなどについても学ぶ。	
10	□国内外の最新動向を踏まえた作業姿勢評価 300-10(02-02)	山　田　晋　平	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	1/29（金）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】作業姿勢に伴う負担を評価できる 【概要】本講義は参加型講義の形式をとり、作業姿勢評価の動向を紹介するとともに、NLE*に加えて、OWAS法やRULA法をはじめとする各種作業姿勢評価法について、その基本的考え方および職場におけるその活用法を習得することを目的とする。 *：米国労働安全衛生総合研究所（NIOSH）が提案している手作業による荷物の持ち上げ持ち下げ作業による腰痛リスクのの評価方（NIOSH lifting equation）。この方法を基本にISO 11228－1がまとめられており、これを受けてJIS化が進められ、新規格として、2021年にJIS Z8505-1の原案が取りまとめられている。	
11	□心理社会的要因による筋骨格系疾患の対策 300-11(02-02)	谷　　直　道	講義 産業医実務研修センター 50名	1/28（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】労働者の腰痛発生及び症状の遷延要因として心理・社会的要因が関与していることを理解する。また、心理・社会的要因による腰痛発生機序ならびに身体・労働生産性等への影響についても理解する。 【概要】腰痛の発生要因はBio-Psycho-Socialモデルとして世界的なコンセンサスが得られている。このうち心理・社会的な要因としては仕事の満足感、上司・同僚らの支援、職場の対人トラブル、過度な長時間労働などによる心理的負荷や学歴、収入、社会的地位などの要因が腰痛の発生及び遷延に関与することが明らとなっている。これらを背景に2013年に改訂された「職場における腰痛予防対策指針」でも、腰痛発生要因について新たに心理・社会的要因が明記された。本講義では、心理的ストレッサーによる脳内でのドーパミンシステムの不具合、学歴・収入といった社会的要因と腰痛の関係について解説する。可能であれば事前に「行動災害（転倒・腰痛）予防の作業管理」を受講することが望ましい。	
12	□行動災害（転倒・腰痛）予防の作業管理 300-12(02-02)	谷　　直　道	講義 産業医実務研修センター 50名	1/13（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】転倒・腰痛災害に関連するリスク要因を理解し、作業管理などの労働衛生管理を含む包括的なリスクマネジメントの重要性を理解する。 【概要】近年の労働災害統計を事故の型別にみると、休業4日以上の労働災害で最も多い原因は「転倒」、次いで「動作の反動・無理な動作（いわゆる腰痛など）」が全体の約半数を占めている。さらに、業務上疾病（但し、新型コロナウイルス感染症を除く）では腰痛が約6割を占め最も多く発生している疾患である。これら転倒災害や腰痛災害は働く人の行動に起因する労働災害として、近年は『行動災害』と呼ばれており、発生件数は年々増加傾向にある。本講義では、これら行動災害の発生要因と原則的な作業管理対応について労働世代の人口動態も踏まえつつ解説する。	

令和08年度　　作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
13	□腰痛職場の運動指導 300-13(02-02)	近　藤　晃　弘	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	1/15（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】腰痛職場における環境因子と個人因子について整理し、職業性腰痛の予防と対策について習得する。 【概要】厚生労働省は「職場における腰痛予防対策指針」を提唱しており、作業性腰痛予防は重要である。中でも製造業における腰痛は労働災害となるだけでなく、労働力・生産性の低下や個人の生涯に関わる問題であり対策が必要である。 某航空機部品製造業事業場における腰痛予防対策として、腰痛予防教育を実施した結果と取り組みについて紹介する。また、実際に行っている腰痛予防対策の運動療法を実施して頂き、身体機能の改善が動作に及ぼす影響を体感して頂く。 理学療法士の視点での評価と治療を紹介し、骨盤不良アライメントや腰痛の発生メカニズムと運動指導の手法を共有する。	
14	□情報機器作業に関する作業管理 300-14(02-02)	川　波　祥　子	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 3（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】1．情報機器作業ガイドラインを概説できる。2．作業場の写真を見て問題点と改善提案を3つ以上挙げられる。 【概要】情報機器作業が健康に及ぼす影響には疲労の問題があり、眼精疲労や肩こり等を訴える作業者は多い。これらの症候を予防するためには作業方法、作業時間等の管理を行い、疲労が蓄積しないような対策を講じることが重要である。本講義では、ガイドラインで示される望ましい作業管理を解説し、具体例を提示することで、職場巡視や健康診断事後措置において産業医として適切な指導が行えることを目的とする。	
15	□シフトワーカーの作業管理 300-15(02-02)	丸　山　　崇	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 3（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】 ①睡眠・生体リズムの基礎について理解する。②夜勤・交替勤務のリスクについて理解する。③夜勤・交替勤務の健康管理について理解する。 【概要】 夜勤・交替勤務は電力などインフラ業、製造業、運輸業、医療福祉業などで多く見られる勤務形態であるが、夜勤・交替勤務には、健康リスクや安全リスクがあることも知られている。本講座では、睡眠・生体リズムの生体機構の基礎について学ぶとともに、人間が本来持つ生理機構に反する働き方である夜勤・交代勤務による健康影響や夜勤・交替勤務者（シフトワーカー）の健康管理や作業管理の実際について学ぶ。	
16	□過重労働対策 300-16(02-02)	宮　﨑　洋　介	講義 産業医実務研修センター 50名	1/12（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】医師として長時間労働者に対する面接指導を適切に実施できる。 【概要】過重労働は長らく社会問題となっており、産業医も企業内で過重労働対策に関わることが多い。本講義では、社会背景や日本の労働状況を踏まえながら、過重労働による健康障害の発生機序や疫学、関係法令を概観し、産業医による過重労働対策について解説する。	

令和08年度　　作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
17	■騒音障害防止のためのガイドラインと許容基準 300-17(02-02)	井　上　仁　郎	講義 遠隔講義 50名	1/25（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】騒音障害防止のためのガイドラインを正しく事業所で適用できる。 【概要】騒音性難聴の予防のための騒音職場の健康管理の実態をふまえた作業環境測定・健康管理・労働衛生教育の方法、および、日本産業衛生学会の騒音の許容基準について解説する。「騒音障害防止のためのガイドライン」制定時にはあまり想定されていなかった労働実態（高齢労働者の増加、音源が作業者に近い手持動力工具の普及、管理区分の異なる作業場を移動する作業、日内の騒音の大きな変動がある作業場）への対応や、労働衛生の新知見（欧米で実施の個人曝露測定への流れ、ガイドラインに組み入れられていない衝撃音の評価、雇入時の聴力からの変化を指標とするStandard Threshold Shift、事業場単位で聴力保護対策をマニュアル化するHearing Conservation Program（聴力保護プログラム））についても概説する。	
18	□呼吸用保護具の適正使用 300-18(02-02)	川　波　祥　子	講義　実習 産業医実務研修センター 20名	3/ 9（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 実地 1.5	【到達目標】1．呼吸用保護具を正しく選択できる。２．呼吸用保護具を着用し、フィットテストで漏れ率10%以下を達成できる。 【概要】労働現場における吸入暴露をする健康障害因子には、粉じんや有毒ガス、細菌・ウイルスなどがあり、これらによる健康障害防止策の最終的手段として呼吸用保護具の着用がある。しかしながら、その効果や限界、ならびに使用法については、現場で指導にあたっている専門家でも、十分な知識を有していない場合がある。特に呼吸用保護具は使用前に各人がフィットテストを行って自分の顔に合うかを確認する必要があるにもかかわらず、実施されていない企業もまだまだ多い。そこで本講義実習では、自分の顔に合った呼吸用保護具の選択方法と、その適切な装着方法、そしてフィットの確認方法について学ぶこととする。	【抽選】　余裕があれば学外者受講可
19	□個人用保護具の管理 300-19(02-02)	東　　秀　憲	学内実習 産業医実務研修センター 35名	2/12（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 実地 1.5	【到達目標】①保護具の選択・使用・保守管理について作業管理および作業環境管理と関連づけて実践できる。②現場の状況に応じた保護具の選択・使用について説明できる。③主に手、足、または全身についての有害要因からの保護について説明できる。 【講義概要】労働現場における健康障害防止策の最終手段として個人用保護具の着用がある。 本講義では、化学防護手袋を中心に個人用保護具に関して、その種類や性能について学び、個人用保護具選定の際の基礎知識を得るとともに、具体的な選定手順について学修し、個人用保護具の正しい装着法や適切な管理について習得する。	【抽選】余裕があれば学外者受講可。
20	□作業管理活動と職場巡視 300-20(02-02)	山　田　琢　之	学外実習 産業医実務研修センター 50名	2/ 4（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①将来、独立系産業医（労働衛生コンサルタント）として活躍できるノウハウを身に着ける。②作業管理は予防医学の一環であることの理解を深める。 【概要】作業管理とは、作業そのものと働く人々の作業態様について分析し、作業負担から生じる健康障害を予防する。そして、問題点の改善（作業時間、作業負担、作業手順、作業姿勢などを検討）が中心の作業管理に加え、第一次予防の快適で楽しく働くことができる職場づくりに寄与することが大切である。労働の場で引き起こされる健康障害や労働災害の根源を学問的に追求するためには職場を知らなくてはならない。作業管理活動を実践するために必ず行わなくてはいけないのが「職場巡視」である。「機械―人間系」が「人間工学」といわれるが、「労働の場（職場）―人間系」が「産業保健人間工学」つまり「作業管理」である。労働災害が発生した場合、後日書類を見て検討することは容易だが、そこには現場の苦労や本当の危険は見えてこない。そこで私が経験した職場巡視の体験を報告する。	

令和08年度　　作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
21	□職場改善の実例 300-21(02-02)	センター教員	学外実習 学外 20名	2/18（木）	コマ数 3 医師会認定単位区分	【到達目標】１．訪問先の巡視後に労働衛生の観点からコメントを述べることができる。２．職場巡視報告書に良好事項、改善検討事項をそれぞれ3つ以上記載できる。 【概要】職場をめぐる環境の変化の中で、新たに就業に伴う疲労やストレスの問題が生じている。一方、国民の意識は物質的な豊かさから心の豊かさに変化してきていて、職場における働きやすさが重視されるようになっている。つまり、疲労やストレスを感じることが少ない快適な職場環境を形成していくことが、きわめて重要となっている。快適な職場環境を形成していくことは、労働者の有する能力の有効な発揮や、職場の活性化にも資するものと考えられる。当実習では企業における取り組みの実例について学外実習形式で学ぶ。	【抽選】学内者のみ受講可
22	★職場改善の実例の事後措置 300-22(02-02)	センター教員	レポート提出 20名	2/25（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分	【到達目標】職場巡視報告書に良好事項、改善検討事項をそれぞれ3つ以上記載できる。 【概要】本講座は、別講座『職場改善の実例』の事後措置として実施する(両方の受講を要する)。本学習では、大学近郊の事業場において職場改善の実例を模擬巡視で学習した結果について、受講者が各自、職場巡視報告書の形にまとめ、内容について検討会で相互に検討する（会議後に報告書を修正し、巡視した事業場の担当産業医へ提出する）。検討会の中で、学習した職場改善について整理し、受講者の視点での更なる改善を提案することで、継続的な職場改善について学ぶ。尚、担当教員の判断により、e-learning上での報告書の添削指導で検討会に代える場合もある。	【抽選】学内者のみ受講可。レポート提出のみ。
					コマ数 医師会認定単位区分		
					コマ数 医師会認定単位区分		